

平成 28 年度  
沖縄振興特別推進交付金

平成 28 年度  
関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務  
報 告 書  
(概 要 版)

平成 29 年 3 月  
宜 野 湾 市



# 目 次

<b>1. 今年度業務の目的と基本的な考え方</b> .....	1
1-1. 今年度業務の目的 .....	1
1-2. 今年度業務の基本的な考え方 .....	2
<b>2. 今年度の成果と課題</b> .....	3
2-1. 「若手の会、地権者への取組み」の成果と課題 .....	3
2-2. 「NBミーティング、市民などへの取組み」の成果と課題 .....	10
2-3. 「跡地利用計画（素案）策定に向けた地権者の意向把握」の成果と課題 .....	19
2-4. 「先進地視察」の成果と課題 .....	28
2-5. 「懇話会の開催」の成果と課題 .....	31
2-6. 今年度の成果と今後の課題 .....	33



# 1. 今年度業務の目的と基本的な考え方

## 1-1. 今年度業務の目的

### (1) これまでの取組み背景

「普天間飛行場の跡地利用の促進及び円滑化等に係る取組分野ごとの課題と対応の方針についてのとりまとめ」を受けて、「普天間飛行場関係地権者等意向把握全体計画（平成13年度）」が策定された。その後、「計画づくり」、「地権者等意向醸成」に関する取組みが進められている。

#### ①計画づくり

計画づくりについては、「跡地利用基本方針、行動計画の策定」、「キックオフ・レポート（土地利用・環境づくり提案）の作成」、「全体計画の中間取りまとめ（素案）作成」、「全体計画の中間取りまとめの策定」という流れで段階的に具体化が進められている。今後は、「跡地利用計画（素案）」が策定された後、計画内容の具体化に向けた検討を進め、「跡地利用計画」の策定に向けて取り組んでいく。

#### ②地権者等意向醸成

合意形成に向けた場づくり・人づくり・組織づくり等の活動を長期的展望のもとに展開し、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」、「ねたてのまちベースミーティング（以下、NB ミーティング）」の組織化等が図られてきた。

両組織の成熟具合等を勘案しながら、今後は将来的な組織の自立化を促すような取組みに向けて進めていく。

また、各種団体や大学生等と地域全体の連携のもと協働の取組みが展開されている。

### (2) 本業務の目的

今後策定が予定されている「跡地利用計画（素案）」に向け、地権者等意向醸成（本業務）においても計画の具体化に対応した合意形成に向けて徐々に展開していく必要があることから、そのための基礎づくりとして、今年度においても昨年度に引き続き「全体計画の中間とりまとめ」の内容の更なる周知を図っていく。

また、今後の「計画づくり」に対する参考資料として活用を促していくためにも、地権者の大まかな土地活用意向の把握を行う。

あわせて、「跡地利用計画（素案）」策定後の事業化に向けた対応を見据え、昨年度に引き続き地権者の意向集約に向けた体制づくり、市民に関しては跡地利用への関心向上に向けた体制づくりを徐々に進めていく。

## 1-2. 今年度業務の基本的な考え方

前頁の目的を踏まえ、今年度業務の基本的な考え方と取組み方針は、以下の通りとする。

### 【今年度業務の基本的な考え方と取組み方針】

基本的な考え方	取組み方針
1) 地権者に対して	
中間取りまとめの内容の更なる周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会等の場での詳細な説明。</li> <li>・跡地利用に関する継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。</li> </ul>
大まかな土地活用意向の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回収率の向上を図るための取組みの実施。</li> <li>・地主会未加入者の意向も把握する。</li> </ul>
返還後の事業化を見据えた、地権者の意向集約に向けた体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手の会の定例活動の充実及び自主活動による会の活性化。</li> <li>・地主会と若手の会との連携強化。</li> <li>・若手の会及びNBミーティング合同での勉強会や先進地視察会等の継続実施による組織間の連携強化と議論の深化。</li> </ul>
2) 市民等に対して	
市民の関心の向上に向けた取組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・跡地利用に関する継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。</li> <li>・NBミーティングの活動を今後進めていく上での、基礎的な地固めを行う。</li> <li>・継続的にまちづくりの検討の場に参画する市民の掘り起しを行う。</li> <li>・若手の会及びNBミーティング合同での勉強会や先進地視察会等の継続実施による組織間の連携強化と議論の深化。</li> <li>・市外、県外への情報発信に向けたホームページの更新。</li> </ul>
3) 今年度の取組みの評価及び検証	
継続した懇話会*の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合意形成活動全体についての評価・検証を行う場の継続。</li> <li>・合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施。</li> <li>・若手の会、NBミーティング両組織の活動を進めていく中での課題等について検討し情報共有を図ると共に、各々の組織にフィードバックさせる事により、着実な合意形成活動に繋げていく。</li> </ul>

※「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」

「全体計画の中間とりまとめ」の更なる周知を図り、地権者及び市民の跡地利用に対する機運を高めていくとともに、地権者に対してはアンケート調査を実施し、大まかな土地活用意向を把握するとともに、今後の事業化を見据え地権者の意向集約に向けた体制づくりに取り組んでいく。

市民に対しては、跡地利用に対する関心向上に向けて、継続的な情報発信を行う事とあわせ、市民側の跡地利用を検討する組織であるNBミーティングの組織としての基礎的な地固めを行っていく。

また、今年度業務の評価・検証の場として、「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会（以下、懇話会）」を継続して実施していく。

## 2. 今年度の成果と課題

### 2-1. 「若手の会、地権者への取組み」の成果と課題

取組み方針①：跡地利用に対する継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。

取組み方針②：若手の会の定例活動の充実及び自主活動による会の活性化を図る。

取組み方針③：地主会と若手の会との連携強化。

#### (1) 若手の会の定例会活動支援

##### 【取組みのポイント】

アンケート調査の回収率を上げるための工夫や設問内容等について、地権者またはその子息等で構成される若手の会が、地権者の立場に立って検討を行う。

また、今後も若手の会の活性化を図っていくため、会としてどのような課題を抱えているか抽出した上で懇話会に投げかけるなど、今後の組織体制について検討を徐々に進めていく。

##### 【取組み成果と今後の課題】

###### 【取組み成果】

###### ●地権者の立場で、アンケート調査回収率向上のための検討を行った。

- ・アンケート調査を実施するにあたって、どうすれば回収率が向上できるか、どういう設問ならば答えやすいか等、地権者の立場で様々な検討を行い、設問内容等に反映した。

###### ●現在抱えている課題の解決に向けて取り組む事ができた。

- ・懇話会において、現時点で若手の会が抱える課題について話し合い、挙がった意見を若手の会に持ち帰る事により、メンバー間で課題を把握し、解決に向けて取り組む事ができた。

###### 【今後の課題】

###### ●組織体制、組織拡大のための取組み方策について継続して検討する必要がある。

- ・会員の年齢層が上昇している事に伴う組織体制、組織拡大のための取組み方策について、今年度初めて検討を行った。しかし、より具体的な検討を進めていくためにはまだ時間を要する事から、今後も引き続き継続した検討を行っていく。

###### ●地主会との連携をより強化していく必要がある。

- ・若手の会の自主活動の一環で、平成 26 年度より地主会三役との意見交換会を行っていたが、今年度は地主会との日程が合わないため実施できなかった。今後も自主活動の中で進めていくよう促していくと共に、地主会との連携をより強化し、跡地

利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく必要がある。

●若手の会を考える「跡地利用の理想像」について、引き続き検討を進める。

- ・今年度はアンケート調査や若手の会が現在抱えている課題についての議論が主となり、「跡地利用の理想像」に関する検討が十分なされなかった。次年度以降、これまでの若手の会の提言等を踏まえた「跡地利用の理想像」の検討が必要である。



写真：定例会のようす①



写真：定例会のようす②



## (2) 字別意見交換会の開催

### 【取組みのポイント】

行政からの情報発信だけでなく、参加した地権者の意見を引き出し関心を高める取組みの一環として、これまでの直接的な対話の場であった「地権者懇談会」を平成27年度から「字別意見交換会」に変え実施してきた。

今年度は、跡地利用策定に向けた進捗状況の報告、アンケート調査の結果報告、若手の会の今年度の活動報告を行う事により、跡地利用計画に対する興味及び若手の会の活動に対する地権者の期待を促していく。

### 【概要】

○開催日：平成29年2月15日(水)、16日(木)、20日(月)、22日(水)、26日(日)

○内 容：①普天間飛行場跡地利用計画の策定状況について

②アンケート調査結果について

③普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告

④質疑応答、意見交換

表：「字別意見交換会」の開催日時、会場、対象地区、参加者数

開催日時	会 場	対象地区	参加者数
平成29年2月15日(水) 19:00~20:30	大山公民館	大山、伊佐、真志喜、大謝名	16名 (5名)
平成29年2月16日(木) 19:00~20:30	宜野湾区公民館	宜野湾、佐真下	20名 (3名)
平成29年2月20日(月) 19:00~20:30	喜友名公民館2階	新城、喜友名	20名 (4名)
平成29年2月22日(水) 19:00~20:30	宜野湾市社会福祉センター	野嵩、中原、赤道、上原、神山	22名 (7名)
平成29年2月26日(日) 14:00~15:30	宜野湾市農協会館2階 蘭の間	全地区	44名 (5名)
合計			122名 (24名)

※(参加者数について) 上段：参加者総数

下段：参加者総数の内、若手の会からの参加者

## 【取組み成果と今後の課題】

### 【取組み成果】

●地権者に対し跡地利用計画に関する内容等の情報を発信すると共に、地権者と意見交換を行う事ができた。

- ・地主会・若手の会と行政の協力及び役割分担によって「字別意見交換会」が開催され、参加した地権者に対し、跡地利用計画に向けた取組みや若手の会の活動内容等の情報を発信すると共に、参加した地権者と行政・地主会・若手の会で意見交換を行う事ができた。

### 【今後の課題】

●より多くの地権者が参加しやすい雰囲気づくりを継続して検討する必要がある。

- ・意向醸成活動を進めるにあたっては、より多くの地権者が参加し、意見を言いやすい雰囲気の意見交換会である事が望ましい。そのため、周知方法やテーマも含めた更なる検討が必要である。
- ・実施にあたっては、例えば過去の「地権者懇談会」で実施したような小規模のテーブル形式で開催するなど、テーマに応じた手法の検討が必要である。



写真：字別意見交換会のようす①



写真：字別意見交換会のようす②

### (3) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行

#### 【取組みのポイント】

地権者に対して、跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供を目的として、地権者支援情報誌「ふるさと」の発行を行った。

なお、地主会未加入者も含めて、アンケート調査実施の周知及び結果報告、また、字別意見交換会の開催結果報告等を行った。

#### 【取組み成果と今後の課題】

##### 【取組み成果】

##### ●現時点における合意形成活動の取組み情報を発信できた。

- ・地主会未加入者に対しても「ふるさと」を発行し、より多くの地権者に対して情報を発信できた。

##### 【今後の課題】

- ・今後の計画づくりの進捗等も考慮しながら、時期を捉えた的確な情報発信を継続して行っていく必要がある。
- ・高齢の地権者も含めて、地権者全体に幅広く興味・関心を持ってもらえる情報発信媒体として、見易さ及び分かり易さの工夫など、継続して検討していく必要がある。



**若手の会の参加者を募集しています！**

「若手の会」は、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けた検討組織として活発に活動しており、毎月1回定期的に会合を開催しています。(毎月第2火曜日の19時30分より宜野湾市役所にて) 地権者や地権者のご家族であればどなたでも「若手の会」のメンバーとなることができます。本会の活動に興味・関心のある方は、宜野湾市基地政策部まち未来課までご連絡ください。

**今年度の活動(実施済、予定)のお知らせ**

今年度は、野外活動として「那覇市畜産地域の視察」を行い、沖縄の伝統工芸品「尊屋焼」について学びながら、焼物という地域資源を活かしたまちづくりの実践例や手法、取り組み方や地域住民との課題について学びました。今後の予定としては、国内のまちづくり先進地視察会や字別意見交換会について勉強の成果を発表いたします。

**普天間飛行場跡地利用に関するプロモーションビデオが公開されています。**

平成28年3月に沖縄県と宜野湾市が共同で普天間飛行場の跡地利用計画の検討状況をイメージ出来るプロモーションビデオを作成しました。跡地利用を実現した将来のまちのイメージを映像で視聴出来ます。

※動画共有サービスYouTube(沖縄県公式チャンネル)から閲覧することが可能です。ぜひ一度ご覧ください。(http://www.youtube.com/watch?v=7A8TmYnYYI)

**土地の先行取得事業(軍用地の買い取り)**

宜野湾市と沖縄県では、普天間空港後の道路用地(県)、学校用地(市)を確保し跡地の新たな住みよいまちづくりに向けて、平成25年度より普天間飛行場内の軍用地の買い取りを実施しております。宜野湾市と沖縄県に土地を売却した場合、譲渡所得等については最高5,000万円までの特別控除を受けることができます。(国税事務所との協議により特別控除を受けられない場合もあります。)

【受付期間】  
第二期受付期間 平成28年9月1日から10月31日  
※上記期間以外でも、各地権者の事情に応じて可能な限り対応いたしますので、窓口までご相談ください。

【注意】  
普天間飛行場・キャンプ瑞穂館(西普天間住宅地区)内の200㎡以上の軍用地を個人や不動産業者など民間の方へ土地を売却する場合には、**まち未来課への届出が必要**です。届出をしない土地を売却した場合、50万円以下の過料に処される可能性があります。

※詳細については、別紙の「軍用地(普天間飛行場)の買取りについて! (再掲)」をご覧ください。不明な点等については、下記発行元までお問い合わせください。

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】  
宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課  
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野島一丁目1番1号  
電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口(宜野湾市基地政策部まち未来課)でも提供しております。情報収集や跡地利用に関する要望・ご意見を伝える場としてお気軽にご利用ください。

**お知らせ その1**

今年度は、土地活用意向および普天間飛行場跡地利用計画に関するアンケート調査を実施いたします。

これまで地主の皆様にご回答いただいた土地活用意向の調査結果を踏まえ、現在の土地活用に関する意向を把握するとともに、沖縄県と宜野湾市が共同で行っている普天間飛行場跡地利用計画の検討内容に関するお考えを伺うことを目的としています。アンケート調査は下記の日程で実施いたします。

アンケート発送日・・・平成28年(2016年)9月30日(金)  
アンケート回収期限・・・平成28年(2016年)10月31日(月)

また、アンケート集計結果については、今後、本情報誌「ふるさと」および平成29年2月に実施予定の字別意見交換会において公表予定です。

**お知らせ その2**

アンケート調査に関する説明会を開催いたします。

今年度のアンケート調査に合わせて、アンケートの書き方等について下記の日程で説明会を開催致します。説明会は両日とも同じ内容ですので、ご都合の良い日程にお気軽にご参加ください。

【日程表】

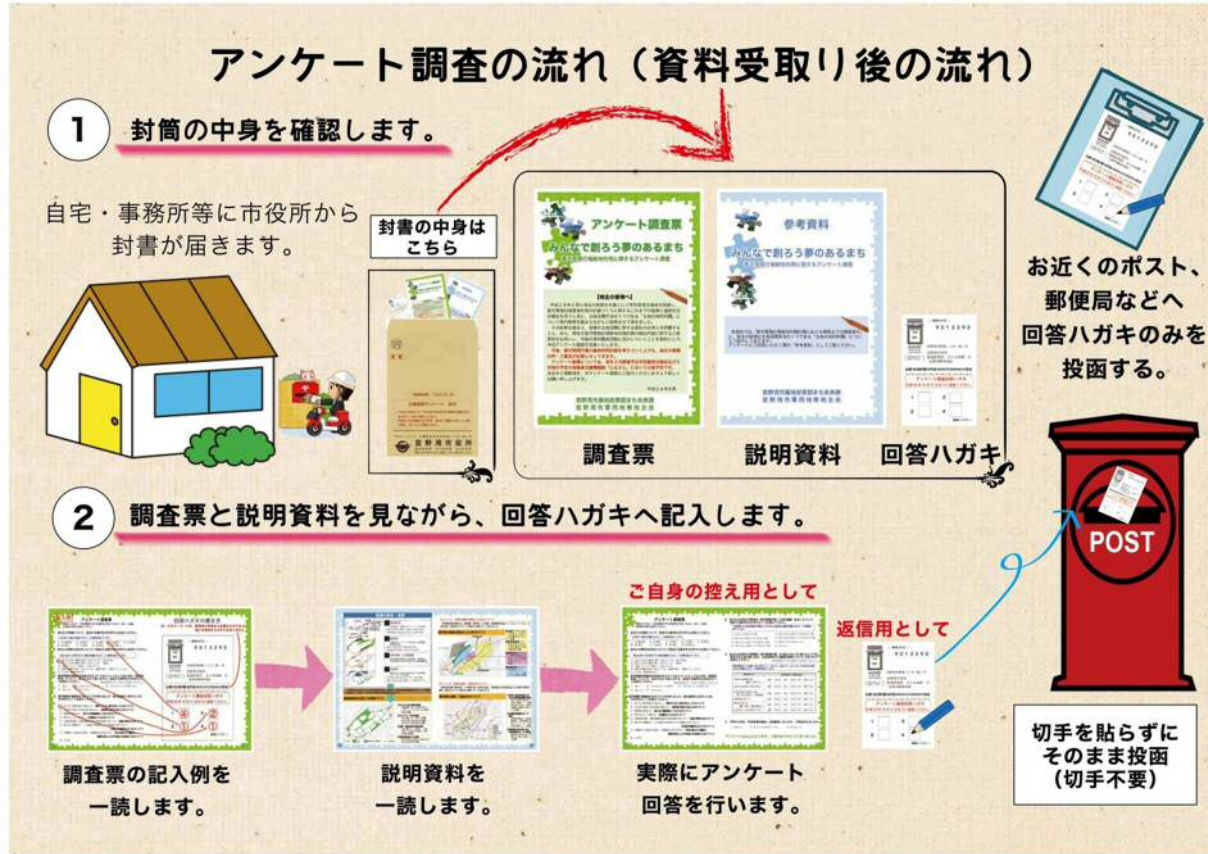
回	開催日	会場	時間
1	10月6日(木)	宜野湾市立中央公民館(市民会館)2階集会場	午後7時～午後8時
2	10月10日(月)	宜野湾マリン支援センター2階会議室	午後2時～午後3時

【地主会会長からメッセージ】  
自分の大切な財産について、地権者個人の意思表示をする手段はアンケート調査以外にありません。「売りたい」「貸したい」等の意向を示すことも地権者のまちづくりに対する大きな努めだと思います。

【若手の会からのメッセージ】  
「貸したい」「未定」の方々には共同利用の可能性が考えられるため、その可能性をアンケート調査で把握する事が出来ます。現時点で全ての地権者の皆さまが参加し、協力出来る事がアンケート調査です。地権者一人ひとりの意思を表す貴重な機会であるため、ご協力を若手の会からのお願い致します。

～ぜひ、みなさまの声を聞かせてください～

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.44(表面)



図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.44(中面)



### 「若手の会」の参加者を募集しています!

「若手の会」は、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けた地権者の検討組織として活発に活動しており、毎月1回定期的に会を開催しています。(毎月第2火曜日の午後7時30分より宜野湾市役所にて)地権者や地権者のご家族であればどなたでも「若手の会」のメンバーとなることができます。本会の活動に興味・関心のある方は、宜野湾市役所基地政策部まち未来課までご連絡下さい。

地権者  
支援  
情報誌

ふるさと

vol.45  
3月 March  
2017 発行  
宜野湾市基地政策部まち未来課

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に係る最新情報をお伝えします。

#### 軍用地の民間売買を行う際に必要な届出の面積要件が変わります

平成29年4月1日より、普天間飛行場およびキャンプ種庫敷(西普天間住宅地区跡地)内の土地を民間(個人や不動産業者)に売却しようとするとき、面積の大小にかかわらず全ての土地に対して宜野湾市(まち未来課)へ「届出」が必要となります。

- ◆なぜ、届出制度が必要なのか  
地方公共団体等が民間の取引に先立って優先的に交渉することによって、跡地利用に必要な公共用地(学校用地・道路用地など)を確保するためです。
- ◆手続きについて  
民間(個人や不動産業者)に売却する前に、宜野湾市(まち未来課)へ土地有償譲渡届出書の提出が必要です。  
※届出から最大6週間は民間への売却が制限されますので、早めの手続きをお願いします。
- ◆罰則規定  
届出をしない土地を売却した場合等は、50万円以下の過料に処される可能性があります。

#### 平成29年度も普天間飛行場内土地の先行取得事業を実施します

宜野湾市と沖縄県は、普天間飛行場返還後のより良いまちづくりを進めることを目的に、学校用地(市)や道路用地(県)の確保のため、平成29年度も普天間飛行場内土地の買取りを実施します。市・県に売却した場合、譲渡所得等については最高5,000万円までの特別控除の対象となります。(国税事務所との協議により特別控除を受けられない場合もあります)

- ◆受付場所 まち未来課
- ◆ご準備いただくもの
  - ①印鑑(認印でも可)
  - ②本人確認書類(免許証等)
  - ③土地賃借料算定調査書及び土地明細書(最新のもの)
- ◆受付期間
  - 第一期:4月3日(月)から6月30日(金)
  - 第二期:7月3日(月)から8月31日(木)
  - 第三期:9月1日(金)から10月31日(火)

※受付期間外でも、事情に応じて可能な限り対応いたしますので、まち未来課までご相談ください。

#### 平成28年度 字別意見交換会を開催いたしました。

地主の皆様を対象といたしまして、昨年度に引き続き下記日程及び内容で「平成28年度 字別意見交換会」を開催し、延べ122名の方にご参加いただきました。

字別意見交換会では、普天間飛行場跡地利用計画の策定状況のご報告、地権者アンケート結果のご報告とあわせ、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会(以下、若手の会)」から会の活動紹介と今年度の活動概要について説明を行いました。その後、ご参加いただいた皆様と意見交換を行いました。

開催日	時間	会場
2/15(水)	午後7時～8時30分	大山公民館
2/16(木)	午後7時～8時30分	宜野湾区公民館
2/20(月)	午後7時～8時30分	喜友名公民館 2F
2/22(水)	午後7時～8時30分	宜野湾市社会福祉センター
2/26(日)	午後2時～3時30分	宜野湾市農協会館 2F(鶴の閣)

#### ◆字別意見交換会の内容

- (1) 普天間飛行場跡地利用計画の策定状況について
  - 1) 跡地利用計画の策定進捗状況
  - 2) プロモーションビデオの放映(平成27年度)
- (2) 地権者アンケート結果について
  - 1) アンケート結果報告
- (3) 普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告
  - 1) 若手の会の活動紹介と今年度の活動概要
  - 2) 質疑応答、意見交換



【大山公民館(2/15開催)】



【農協会館(2/26開催)】

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】  
 宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課  
 〒901-2710 沖縄県宜野湾市野間一丁目1番1号  
 電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口(宜野湾市基地政策部まち未来課)でも提供しております。情報収集や跡地利用に関するお問い合わせ先としてお気軽にご利用ください。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.45(表面)

### 平成28年度 字別意見交換会にていただいた 主なご意見ご質問を紹介します。

#### 【普天間飛行場跡地利用計画に関する事項】

- ・配管方針の案としては良いと思うが、軍港移設の話が出ているため国道58号が渋滞すると思うので、道路をもう1本、大山から東に向かう道路を整備して欲しい。  
回答) 現在は主要な道路のみを記載しているため、細かな道路については、今後詰めていく事になります。
- ・中部縦貫道路など、確定している部分は早目に計画を固めて目に見えるようにして頂きたい。  
回答) 中部縦貫道路は、西普天間住宅地区跡地を通らない事が確定しており、現在国・県の方で見直し予定です。計画を早目に固めていくよう、今後も取り組んで参りますのでご理解ご協力の程お願い致します。
- ・普天間飛行場の現地調査の進捗について教えてください。  
回答) 現在、基地内への立ち入りは困難な状況です。立ち入りできるように、今後も継続して調整してまいります。

#### 【アンケート結果に関する事項】

- ・地権者の意向は、アンケートで把握していく事になるのか。  
回答) 地主会のご意見やアンケート調査結果等も踏まえて、把握していく事になります。
- ・今回の回収率は30%という事であるが、30%で「地権者の意向」となるのか。  
回答) 統計学上は信頼度があるという事になりますが、しかしそれが全地主の皆様のご意向なのか、と言われれば当然そうではありません。跡地利用計画を進めていく上では地主の皆様のご意向が必須となっておりますので、今以上に皆様の意向を把握した上で、計画を検討していく必要があるものと考えています。今後もアンケートを実施させて頂くことになると思いますが、ご協力の程お願い致します。

#### 【ご自身の土地に関する事項】

- ・減歩率は一律なのか、地勢など地理的な影響を受けて変わるのか。  
回答) 仮に土地区画整理事業を実施する場合、確かに減歩が発生します。減歩率は土地の増進の程度により決まるので、全員一律という訳ではありません。  
※減歩で土地の面積は減りますが、減された土地は新しくまちをつくるのに必要となる道路・公園等の用地として活用され、まち自体の価値は全体的に上がります。また、減歩により土地所有者の所有する土地の価値が変化するものではありません。

### 先進地視察の概要についてご報告します。


「普天間飛行場の跡地を考える若手の会(以下、若手の会)」と「わたのまちベースミーティング(以下、NBミーティング)」は、まちづくりの先進情報の収集・蓄積と、跡地利用に関する議論の深化などを目的として、先進地視察を実施しました。

今年度は、「防災のまちづくり」と「エリアマネジメントによるまちの魅力づくり」の2つをテーマとして、宮城県石巻市と宮城県仙台市を訪れました。


【実施日】  
平成28年11月24日(木)～26日(土)

【視察テーマ及び視察先】

- ◆ 防災のまちづくり(宮城県石巻市)
- ◆ エリアマネジメントによるまちの魅力づくり(宮城県仙台市)



石巻市の復興現場の様子



仙台市内まちあるきの様子

#### ◆ 防災のまちづくり

東日本大震災により甚大な被害を受けた石巻市の震災復興地区を訪ねました。

そこでは、巨大な防潮堤だけではなく、道路を高く盛って津波の第2防潮堤代わりにしたり、海岸沿いの漁業集落を高台へ住宅を集団移転させるなど、防災のまちづくりならではの具体的な取り組みを視察する事ができました。

また、震災後における地域住民の防災意識の変化やまちづくりに対する考え方の変化等について、色々と話を伺う事ができました。

#### ◆ エリアマネジメントによるまちの魅力づくり

産官学民の協働・連携を図り、持続的なまちづくりを推進することを目的として設立された、「仙台駅東エリアマネジメント協議会」を訪ね、まちの価値を高めていくための取り組みについて学びました。

元々の協議会発足の経緯や現在の組織構成、継続した取り組みを続けていく事によって徐々に信頼を得る事の重要性や広い歩道空間を使ったイベントの開催など、これまでの様々な取り組み内容について話を伺う事ができました。

「字別意見交換会」は、今後も地主の皆様との意見交換の場として引き続き開催していければと考えております。今回ご事情によりご参加頂けなかった方も、次回以降機会がございましたら、ぜひご参加下さいませようお願い申し上げます。

※ 昨年10月に実施したアンケート調査につきましては、同封しております「普天間飛行場跡地利用に関するアンケート調査報告書(概要版)」をご覧ください。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.45(中面)

9

## 2-2. 「NB ミーティング、市民などへの取組み」の成果と課題

取組み方針①：跡地利用に関する継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。

取組み方針②：NB ミーティングの活動を今後進めていく上での、基礎固めを行う。

取組み方針③：継続的に検討の場に参画する市民の掘り起しを行う。

取組み方針④：市外、県外への情報発信に向けたホームページの更新。

### (1) 「NB ミーティング」の活動支援

#### 【取組みのポイント】

NB ミーティングは設立 10 年を迎え、約 30 名の会員が在籍するが、定例会参加者数は年々減少傾向にあり活発な議論や意見交換が難しい状況となっている。また、定例会では NB ミーティングの位置づけなどを中心とした議論が多くなっている。

そこで、今年度は NB ミーティングの目的など基礎的な部分や今後の方向性について共有化を図り、会員を増やす事について検討を進めるなど組織として機能できるような基礎固めに重点を置いた取組みを進めるものとする。

#### 【取組み成果と今後の課題】

##### 【取組み成果】

##### ●活動方針の共通認識を図る事ができた。

- ・NB ミーティング発足の原点に立ち戻って組織の目的を再確認した上で、「跡地利用に対する市民の声を多く受けてとりまとめを行い、跡地利用計画に対して情報発信を行う」という共通認識を図る事ができた。
- ・今後の取組み等について意見交換を行っていく中、定例会参加者の増加を目指して、広報活動計画を立てるなど、NB ミーティングの主体性向上に繋がった。

##### ●企画を通じて学生や市民と交流し、NB ミーティングとして「市民の声」を集約する事ができた。

- ・今年度実施した企画（過去と未来の語り場、NBMまちづくり分科会）を通じ、企画に参加した学生や市民と交流する事で、跡地利用への意見や意向醸成に繋がる提案を吸い上げ、NB ミーティングとして「市民の声」を集約する事ができた。

##### 【今後の課題】

##### ●継続して定例会参加者を増やし、議論の活性化を図っていく取組みが必要である。

- ・新規会員の獲得に繋げるため、会員と地域との繋がりを活かした取組みを行い、議論の活性化に繋げていく事が必要となる。



●**組織の基礎固めを進めていく必要がある。**

- ・現在、メンバー間で興味を持つ分野に相違がみられるため、各分野に別れて議論を分けて行うための仕組みづくりなど、今後も継続して組織の基礎固めについて議論を行い、十分に機能できるようにしていく必要がある。また、メンバーに関しても、例えば正会員とメール会員など将来的にメンバーの種別区分を設ける事も視野に入れておく必要がある。

●**知識の積み上げや目標設定など、充実感を得られる仕組みづくりの構築を進める必要がある。**

- ・今年度検討テーマとして「組織」と「企画」を多く取り上げたが、跡地利用計画策定に向けた取組みへの理解や計画に対する具体的な意見を提案するなど今後は「計画」「学習」分野の時間を増やし、知識の積み上げを行う必要がある。
- ・今年度は会としての共通の方向性「市民の声を集める」事に向け、イベントを通して意見を集め、NB ミーティングとして集約する事ができた。今後は集約した意見の具体的な提案・提言のとりまとめ方や発信先などの検討を行い、最終的な目標を設定し、会員一人一人が充実感を得られる仕組みづくりの構築を進めていく事が必要となる。

●**イベントの継続的な実施に向けた取組みを検討する必要がある。**

- ・今年度のイベントとして、「過去と未来の語り場」を実施したが、イベント終了後のアンケートでは「定期的に継続して企画してほしい」「13字へと繋げてほしい」と継続を要望する声があがっている。
- ・イベントの実施については、会としても内容を事前に理解した上で臨む必要がある事から、会の主体性を向上させていくための取組みの1つとしても期待できる。また、同じ市民の立場から説明を行う事で、更なる跡地利用計画に対する関心啓発や跡地利用に繋がる意見収集を促す可能性が期待できる。



写真：定例会のようす



写真：「過去と未来の語り場」座談会のようす

## (2) 若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催

### 【取組みのポイント】

跡地利用に対する市民の関心向上を図るきっかけづくりとして、「市民が参加しやすい取組み方法・手段を考える」事をテーマとした「NBMまちづくり分科会」を開催し、市民の跡地利用に対する関心の醸成を図る事と併せ、NB ミーティングの活動周知及び新規メンバー獲得を図る。

### 【概要】

参加者（市民）を5分野（観光、自然/農業、歴史、景観、福祉）にグループ分けし、各分野の知識と経験を持った関係者や将来のまちづくりを担う大学生（各分野専攻）、NB ミーティングで企画の素案作成に向けて意見交換を行った。なお、参加者に対しては事前研修を2回実施し、本企画に参加する意義や現在の跡地利用計画に関する知識の理解や習得を図った上で当日に望んだ。

#### ●事前研修1回目

- 開催日時：平成29年2月1日（水） 18:30~21:00
- 開催場所：宜野湾市役所別館3階第一会議室
- 内 容：①NB ミーティングの紹介  
②普天間飛行場跡地利用計画に係る取組み状況の説明  
③座談会（大学生が普天間飛行場跡地のまちづくりを考えることの意義）
- 参加者：9名（大学生4名、分野関係者5名）

#### ●事前研修2回目

- 開催日時：平成29年2月11日（土） 13:00~15:00
- 開催場所：宜野湾市役所別館3階第一会議室
- 内 容：①NB ミーティングの紹介  
②普天間飛行場跡地利用計画に係る取組み状況の説明  
③分野代表学生から素案発表  
④分野毎で意見交換
- 参加者：13名（大学生5名、分野関係者8名）

#### ●当日

- 開催日時：平成29年2月25日（土） 13:00~17:00
- 開催場所：宜野湾市社会福祉センター
- 内 容：①普天間飛行場跡地利用計画に係る取組み状況の説明  
②各分野代表学生による提案（9名）  
③大学生の提案に対して分野別参加者を交えたディスカッション
- 参加者：31名（大学生9名、一般参加者22名）



## 【取組み成果と今後の課題】

### 【取組み成果】

#### ●市民の跡地利用計画に対する啓発に繋がった。

- ・終了後に参加者に対して実施したアンケート（以下、参加者アンケート）では、約90%の方が、「NBMまちづくり分科会に参加して満足した」、「普天間飛行場返還後のまちづくりを考えるキッカケとなった」と回答した。
- ・市民を巻き込んだ対外的な取組みの実施によって、市民が跡地のまちづくりを考えるきっかけづくりに繋がった。
- ・2回の事前学習会を通して、跡地利用に繋がる知識や情報を事前に習得した上で大学での専攻知識と融合させ、跡地利用について考える取組みを行う事ができた。
- ・自発的に学生がNB ミーティング定例会に参加し共にフィールドワークを行うなど、NB ミーティングとの交流にも繋がった。

#### ●市民参加型によるまちづくり検討の土台作りに繋がった。

- ・参加者アンケートでは、約80%の方がNB ミーティングの会議参加（見学）を希望すると回答した。
- ・各分野の提案発表とその内容に対する質疑応答が行われ、提案の課題や改善策が得られた事で、継続した検討に繋げる事ができた。

#### ●NB ミーティングの活動に直結する成果に結びついた。

- ・NB ミーティング定例会での議論を通して、会としてやりたい事や目的を絞り込み次年度以降に繋がるテーマ設定ができた。

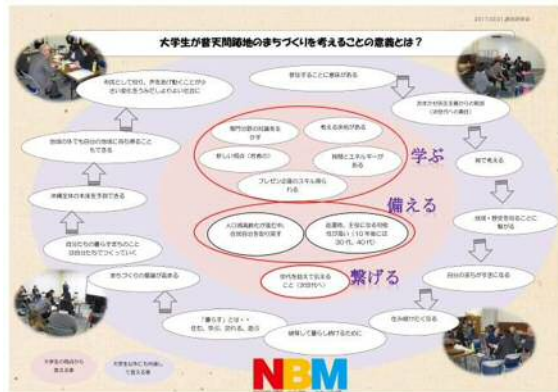
### 【今後の課題】

#### ●効率的な実施体制の検討が必要である。

- ・参加者については、学生、分野関係者以外の一般参加者の数が少なかった。今後、より多くの市民を集めて効率的な実施体制で「まちづくり」に対する啓発活動を行っていく事が必要となる。



写真：ディスカッションのようす  
(事前研修 1 回目)



図：「大学生が普天間跡地のまちづくりを考えることの意義」取りまとめ表  
(事前研修 1 回目)



写真：大学生の提案発表のようす  
(事前研修 2 回目)



写真：分野関係者からアドバイスを受けるようす  
(事前研修 2 回目)



写真：大学生の提案発表のようす



写真：分科会のようす

### (3) まち未来だよりの作成・発行

#### 【取組みのポイント】

市民を対象とした情報誌「まち未来だより」による情報提供を行い、情報発信媒体としての確立を図る。また、跡地利用に向けた現在の進捗状況等に関する情報提供を行うとともに、NB ミーティングの認知度向上に向けた活動の周知等を行う。

#### 【取組み成果と今後の課題】

##### 【取組み成果】

##### ●跡地利用に向けた取組みに関する情報を提供。

- ・全体計画の中間とりまとめや、市民のまちづくり機運醸成を目的に実施した「過去と未来の語り場」「NBMまちづくり分科会」の内容などを掲載し、跡地利用に向けた取組みに関する情報提供ができた。

##### ●視覚的な見やすさの向上と、より広範囲への情報発信が可能となった。

- ・「まち未来だより」のサイズをA4からA3にした事で、多くの内容を盛り込めた。また、文字による情報提供だけでなくイラストや図の活用など工夫する事で、読みやすい情報誌となった。
- ・これまでは自治会加入世帯のみの配布で、多くの世帯に届いていないという課題があったが、今年度からは全戸配布となり多くの市民への情報発信が可能となった。

##### 【今後の課題】

- ・市民に対して跡地利用に関する情報を提供し市民の関心を高めるため、今後も継続して発行する必要がある。
- ・より良い跡地利用の実現に向けては、周辺市街地と合わせた整備が必要となる事から、今後は「まちづくり分科会」のような市民のまちづくり機運向上を目指した取組みを積極的に展開していく必要がある。そのため、情報誌を通じた開催案内や活動結果の報告等を行う事で、市民の参加・協力を促していく事が求められる。



## 1.「NBMまちづくり分科会」を開催！ ～「普天間飛行場の跡地利用を考える」キッカケ探し～

普天間飛行場返還後の跡地利用は、跡地周辺の地域と一体となった整備が必要なこと、跡地利用が宜野湾市の発展に大きく寄与することから、市民のみならず分科会や意見がとも重要で、そこで、今回は市民という大きな枠から5つの分野（観光、農業 / 自然、歴史、景観、福祉）に区分し、各分野の関係者、学生の目線から跡地利用との繋がりを考えていくことを目的として以下の取り組みを予定しておりますので、多くの方のご来場をお待ちしております。

「各分野と普天間飛行場跡地利用の関係性を考える」  
 「考えられた関係性から参加しやすい取り組み方法・手段を考える」

日時：2017年2月25日(土) 午後1時～午後5時  
 会場：宜野湾市社会福祉センター  
 参加予定者 約25名：各分野の関係者、学生など  
 主催：ねたてのまちベースミーティング  
 協力：宜野湾市基地区画部まち未来課



※写真は、平成27年度開催の「学生月会報告2016」のものです。

## 3. 沖縄県と宜野湾市は共同で普天間飛行場跡地利用計画策定に向け取り組んでいます！



沖縄県と宜野湾市は共同で普天間飛行場跡地のまちづくりの検討を進めており、平成25年3月に普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ」を策定しました。未来の普天間飛行場のまちづくりに向けては、これからも地権者、市民、県民の皆さんの意見を聞きながら更に進化させていきます。

### 普天間飛行場跡地利用に関するプロモーションビデオが公開されています。

平成28年3月に沖縄県と宜野湾市が共同で普天間飛行場の跡地利用計画の検討状況をイメージ出来るプロモーションビデオを作成しました。跡地利用を実現した将来のまちのイメージを映像で視聴出来ます。

※普天間飛行場跡地未来予想図から閲覧することが可能です。ぜひご覧ください。  
<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mirai/>

【「まち未来だより」発行元】  
 宜野湾市役所 基地区画部 まち未来課  
 〒901-2710 沖縄県宜野湾市野原一丁目1番1号  
 電話 098-893-4401 (直通) FAX 098-892-7022

図：「まち未来だより」Vol.5（表面）

## 2. 市民の検討組織「ねたてのまちベースミーティング(NBM)」が積極的に活動中！

平成18年度に発足し、周辺市街地のまちづくりを含めた普天間飛行場の跡地利用を市民目線で考える事を目的に、定例会での意見交換や対外的な取り組み・活動を行っております。

### ① NBM「活動紹介」

- 市民や若者・地権者組織との意見交換会
- 毎月第3火曜日 午後7:00～午後8:30 宜野湾市役所内
- まち歩き・視察会
- タイムカフェ
- 不定期開催
- ゲストスピーカー招きしゅうによる勉強会
- 大学生と連携した勉強会

### ② 前年度までの活動：多様なフィールドワークから市民の声を集めました。

**タイムカフェ**  
水、生き物の重要性、都市の中にある緑地等の癒しの空間として、タイムを位置づけ、そこから跡地利用について考えたいイベントとして開催しました。

**NBM世代交流まちづくりゆんたく会**  
NBM学生円卓会議  
「普天間飛行場の未来を考えよう」をテーマとして世代間の垣根を越えた意見交換や、学生目線での意見発表を行いました。

**アートインファーム講演会**  
普天間飛行場跡地利用の一助として、オープンスペース(公園等)を考えた場合に、どのような活用が考えられるか、アートインファーム(農地を活用したイベント)経験者を招いて講演会を開催しました。

**NBM我如古まちあるき懇話会**  
まちづくりを考えるにあたり、地域を知り、地域の考えを確認するため、地域のみなさまとまちあるき意見交換を行いました。

NBMの活動としてのこれまでのイベントを通して

### 普天間飛行場跡地利用についてのひとりひとりの声を絵にしてみました

### ③ 今年度の活動：NBM「普天間飛行場の過去と未来の語り場」

ねたてのまちベースミーティング主催のもと、市民や学生、有識者にご参加いただきました。初めに普天間飛行場跡地利用計画のプロモーションビデオを視聴し、宜野湾市の戦前・戦後集落(まち)についての講演をお聞きした後に、座談会にてテーマ「宜野湾(普天間飛行場と市街地)のまちをどうやって未来のまちづくりを考えてみよう！」を語り合いました。

**NBMのまとめ**

**コミュニティ**  
過去の行事(祭りなど)を継承しながらコミュニティを育み、遺棄地の跡地に新たな創造されるコミュニティとどう付き合っていくか大切な課題であり、これからは跡地と周辺地域一体で考えていく必要があると認識できた。

**景観**  
計画も「景観の再生」として行われている。景観計画は「景観計画」が策定されたことにより、その背景を調査することで、今後のまちづくりの参考にしたい。

**出席者を知る人の意見を聞く**  
普天間飛行場跡地の集落の存在を伝えることで、生活地として身近に感じられ、跡地利用についても考えさせるきっかけが繋がると考え、今後、今年も日時を定めて人等を集めた企画等を開催したい。一般市民の参加を促して進めたい。

### NBM 参加しませんか？

NBMに参加して、普天間飛行場跡地のまちづくりについて考えてみませんか？

宜野湾市内在住、又は宜野湾市内勤務・修学の方であればなたでも参加可能です。あなたの意見・考えをNBMへお聞かせください。あなたの意見・考えが、宜野湾市のより良いまちづくりにと繋がる第一歩となります。

お問い合わせ先 宜野湾市役所 基地区画部まち未来課  
[http://www.city.ginowan.okinawa.jp/base/02/29127\\_507.html](http://www.city.ginowan.okinawa.jp/base/02/29127_507.html) NBM 連絡先プログラム <http://netate.seesaa.net/>

※毎月第3火曜日(夜7時から)宜野湾市役所内において、市民目線で話し合います。  
 ※参加費を要するものではありません。お気軽に「まち未来だより」発行元までお問い合わせください。  
 ※NBMのホームページ(NBM)は、インターネット「City.ginowan.jp」からアクセス可能です。お気軽に「まち未来だより」発行元までお問い合わせください。

図：「まち未来だより」Vol.5（中面）



# まち未来だより

## ねたてのまちベースミーティング(※)主催「NBMまちづくり分科会」を開催しました!

(※は中面参照)

※ねたてのまちベースミーティング(略称:NBM) 宜野湾市のまちづくりを考えた普天間飛行場の跡地利用を市民目線で考える事を目的に、定例会での意見交換や対外的な取組み・活動を行っている団体です。

### 分科会開催にあたって(将来に繋がるまちづくりに向けての取組み)

普天間飛行場返還後のまちづくりには、跡地とその周辺市街地を含む整備が必要となることから、夢のあるまちづくりに向けた市民のみならず、市民のお考えやご意見がとても重要です。沖縄県と宜野湾市は跡地利用計画策定に向け取り組んでおり、NBMは県市の取り組みを踏まえながら、市民のみならずから普天間飛行場返還後のまちづくりにつなげる声を集めています。その取り組みの一環として今年2月に「NBMまちづくり分科会」を開催しました。

また、分科会開催に先立ち、「全体計画の中間取りまとめ」を基礎とした事前研修(中面参照)を実施しました。(中間取りまとめにおける配置方針図は、下図をご覧ください。)

沖縄県と宜野湾市は共同で普天間飛行場跡地のまちづくりの検討を進めており、平成25年3月に普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ」を策定しました。未来の普天間飛行場のまちづくりに向けては、これらも地権者、市民、県民の皆さまの意見を聞きながら更に進化させていきます。

分科会自体の取り組みが、分科会開催に先立ち、「全体計画の中間取りまとめ」を基礎とした事前研修(中面参照)を実施しました。(中間取りまとめにおける配置方針図は、下図をご覧ください。)

### 先進地視察で普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて情報・知識を広げます!

「ねたてのまちベースミーティング」は、まちづくりの先進情報の収集・蓄積と、跡地利用に関する議論の深化などを目的として、先進地視察を実施しました。今年度は、「防災のまちづくり」と「エリアマネジメントによるまちの魅力づくり」の2つをテーマとして、宮城県石巻市と宮城県仙台市を訪れました。

【実施日】 平成28年11月24日(木)～26日(土)  
 【視察テーマ及び視察先】 ◆防災のまちづくり(宮城県石巻市)  
 ◆エリアマネジメントによるまちの魅力づくり(宮城県仙台市)



◆**防災のまちづくり**  
 東日本大震災により甚大な被害を受けた石巻市の震災復興地区を訪れました。そこでは、巨大な防潮堤だけでなく、道路を高く盛って津波の第2防潮堤作りしたり、海岸沿いの漁業集落を高台へ住宅を集団移転させるなど、防災のまちづくりならではの具体的な取り組みを視察する事ができました。また、震災前後における地域住民の防災意識の変化やまちづくりに対する考え方の変化等について、色々と話を伺う事ができました。

◆**エリアマネジメントによるまちの魅力づくり**  
 産官学の協働、連携を図り、持続的なまちづくりを推進することを目的として設立された、「仙台駅東エリアマネジメント協議会」を訪ね、まちの価値を高めていくための取組みについて学びました。先々の協議会発足の経緯や現在の組織構成、継続した取り組みを継続していく事によって徐々に信頼を得るの重要性や広い歩道空間を使ったイベントの開催など、これまでの様々な取り組み内容について話を伺う事ができました。

### 普天間飛行場跡地利用に関するプロモーションビデオが公開されています。

平成28年3月に沖縄県と宜野湾市が共同で普天間飛行場の跡地利用計画の検討状況をイメージ出来るプロモーションビデオを作成しました。跡地利用を実現した将来のまちのイメージを映像で視認出来ます。

※普天間飛行場跡地未来予想図から閲覧することが可能です。ぜひ一度ご覧ください。  
<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-miral/>

【「まち未来だより」発行元】  
 宜野湾市役所 基地政策課 まち未来課  
 宜野湾市基地政策課まち未来課 でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を頂く等とお気軽にご利用ください。

図：「まち未来だより」Vol.6 (表面)

# NBMまちづくり分科会の概要について

分科会では、「市民と普天間飛行場跡地利用との関係性」や、「参加しやすい取り組み方法」をテーマに意見交換を行いました。そして、観光、農業 / 自然、歴史、景観、福祉の視点から提案をまとめました!

**事前研修**

「NBMまちづくり分科会」では5つの分野(観光、自然 / 農業、歴史、景観、福祉)に区分し、各分野の知識と経験を持った関係者や、将来のまちづくりを担う大学生にお集まり頂き、返還後のまちづくりに対して意見交換を行い、提案としてまとめていきます。

参加者は、事前研修会を2回実施し、本企画に参加する業種や現在の跡地利用計画等を通して理解や知識の習得を図り、本書のグループ構築及び意見交換に備えました。

**各分野からの提案内容**

**観光分野**  
 「しの一人体験型まち一い」  
 まちあるきや観光を通して、市民が自ら自発的に宜野湾市の魅力を発見する学習型アクティビティ(活動)  
 今後のイメージ  
 大山の家族連れ寄りや大衆的な食グルメツアー、大山の農産物体験イベントの開催を目指す。  
 跡地利用に向けて  
 跡地活用までの間に自治体ごとで交流するポテンシャル(可能性)を高めていき、地域の結束力強化に繋げる。

**歴史**  
 「戦艦龍骨の生涯を創る」  
 戦艦、宜野湾市の「リグ」として活躍した戦艦龍骨の功績や人間的な側面を題材とした劇を演じ、地元の歴史への関心を高めていく。  
 今後のイメージ  
 宜野湾市内の小学校の学習会で演目として取り上げて頂き、次世代への歴史の継承・関心を高めていく。  
 跡地利用に向けて  
 跡地活用に向けた歴史を、地域への愛着を増して跡地利用を考えることに繋げていく。

**農業自然**  
 「科学館の設置」  
 「科学館を通して跡地利用を考える」「チームをやる」などの関係性を学生主体で実施する。  
 今後のイメージ  
 市民が参加しやすい科学館等の定期開催を行い、大人も子どもも楽しみながら科学に対する関心を高めていくことを目指す。  
 跡地利用に向けて  
 特に「科学館の設置」を高め、跡地利用の中心の一つとして「科学館の設置」を考慮、実現だけでなく観光客にとっても学びの場となるように繋げていく。

**福祉**  
 「世代間ウォーキング&フォトセッションコンテスト」  
 世代間ウォーキングをガイド付きでウォーキングしながら好きな風景写真を撮り記録に残す。  
 今後のイメージ  
 異なる世代間のゆるやかなコミュニケーション形成のため、「地元を自分たちで考える」市民の増加、意識は「昔はここに墓地があった」というような事を発信するウォーキングを目指す。  
 跡地利用に向けて  
 「跡地利用を考える」ことのハードルを下げ、地域や世代の異なる人々の関係性が生まれ、更に地元意識が湧き、跡地利用の話し出来るような雰囲気づくりに繋げていく。

**景観**  
 「景観マップの作成」  
 現在の景観についてフィールドワークを通して学びながら検討を行いマップ作成を行う。  
 今後のイメージ  
 自然景観のマップを作成し、歴史と自然の関わりを伝えるマップとなる事を目指す。  
 跡地利用に向けて  
 跡地利用を考える際の、歴史と自然、住宅景観のイメージ作りを繋げていく。

**分科会の目的**

普天間飛行場の跡地利用について各分野から意見交換し視野を広げた。  
 ・企業を考えることで、普天間飛行場の跡地利用について自然と考える事ができた。  
 ・現在の宜野湾市の課題等を普天間飛行場の跡地利用で解消する事が出来ればよいと思う。  
 ・多様な分野から意見を聞けたのが大変勉強になった。また是非聞きたい。  
 ・出た提案をブラッシュアップして実現されるのであれば、とても素晴らしい企画だと思う。NBMの方や他分野の方の話を聞けただけでも満足できた。  
 ・幅広い世代として、今回の取り組みに参加して、普段なら触れない知識を知り、アウトプットのため大きなインプットができて大変喜びがあった。  
 ・今回参加したことで、基地の跡地利用の状況を知る事が出来た。大学で学んでいる事社会にフィードバックできることを学べたのも良かった。

**NBMのまとめ**

様々な世代や業種の方々と跡地利用を考えるきっかけにして話し、提案を頂くことは大変よかったです。今後、ご意見を頂いた企業について内容を深め、実現が望めると良いと思います。  
 「NBMまちづくり分科会」へご参加して頂きました皆様、誠にありがとうございました。

図：「まち未来だより」Vol.6 (中面)

#### (4) ホームページの更新

##### 【取組みのポイント】

市外・県外に対して広く普天間飛行場跡地利用に関する取組み状況等を周知するため、跡地利用に係る行政側からの情報や若手の会、NB ミーティングの活動状況等の情報をまち未来課のホームページに掲載、更新を行った。

##### 【取組み成果と今後の課題】

###### 【取組み成果】

###### ●幅広い情報提供に繋がった。

- ・ホームページ上での情報提供によって、市内の地権者や市民はもちろんの事、市外・県外の地権者や関心を持った住民等に対し、普天間飛行場跡地利用に関する取組み状況等を発信する事ができた。

###### 【今後の課題】

- ・市外、県外の地権者を始めとする幅広い対象者へ、継続的に情報提供を行っていくため、ホームページを媒体とした情報発信を継続する必要がある。
- ・高齢の地権者も含めた誰もがホームページ上で必要とする情報を閲覧出来るよう、分かりやすさを重視した見せ方の工夫等について今後検討が必要である。

## 2-3. 「跡地利用計画（素案）策定に向けた地権者の意向把握」の成果と課題

取組み方針①：回収率向上を図る取組みの実施。

取組み方針②：地主会未加入者の意向も把握する。

### (1) 土地活用意向調査の実施・集計

#### 【取組みのポイント】

現在の普天間飛行場跡地利用計画の検討内容に関する意見や現時点における地権者の土地活用に関する大まかな意向を把握する事を目的として、アンケート調査を実施した。

実施するにあたっては、今回から地主会未加入者も対象とし、広く地権者の意向を把握する。また、アンケート調査票については分かりやすく、回答しやすい工夫を行うと共に、回収率を上げていくため地主会とも連携を取りながら進めていく。

#### 【実施概要】

(調査対象)

- ・普天間飛行場の全地権者（海外在住者などを除く）

(実施時期)

- ・配 布：平成 28 年 9 月 30 日発送
- ・回収期限：平成 28 年 12 月 31 日（消印有効）

(配布・回収方法)

- ・郵送による配布回収
- ・郵送後、2 会場でアンケート説明会を開催し、会場内で回収を行った。

#### 【アンケート説明会】

開催日時	会 場	参加者数	回収数
平成 28 年 10 月 6 日（木） 19：00～20：00	宜野湾市立中央公民館	46 名	13 件
平成 28 年 10 月 10 日（月） 14：00～15：00	宜野湾マリン支援センター	19 名	7 件

- ・12 月に全地権者に対し礼状兼アンケート調査協力依頼文を送付した。

(配布・回収状況)

配布数	回収数	回収率
3,968 (内、市内 2,617)	1,204 (内、市内 728)	30.3% (内、市内 27.8%)

(平成 29 年 1 月 4 日集計)

(参考 平成 15 年度及び平成 23 年度アンケート調査回収状況)

年度	配布数	回収数	回収率
23	3,128	1,051	33.6%
15	2,470	1,729	70.0%

## 【取組み成果と今後の課題】

### 【取組み成果】

- 若手の会や懇話会の意見を踏まえて、地権者が回答しやすいアンケート調査票を作成した。**
  - ・地権者の目線で回答しやすい工夫を行う事により回収率の向上につなげていくという考えのもと、アンケート調査票の設問や回答の仕方などについて懇話会や若手の会で検討を進める事により、回答しやすいアンケート調査票を作成した。
- 地主会未加入者も含めた意向を把握する事ができた。**
  - ・地主会未加入者の意向も踏まえてアンケート調査を実施する事により、これまでより広く地権者の意向を把握する事ができた。
- アンケート集計結果に対する考察を行い、現時点における大まかな意向として取りまとめる事ができた。**
  - ・過去に実施したアンケート集計結果との比較等を行う事により、地権者の意向の推移や年齢別の意向の差異等、現時点における地権者の大まかな意向を把握し取りまとめる事ができた。

### 【今後の課題】

- 回収率向上のための取組みを今後検討していく必要がある。**
  - ・回収率を上げるために、今回のアンケート調査は過去のものとは異なり、無記名式でかつ簡略化したもので実施したが、回収率は約 30%という結果であった。
  - ・今後、跡地利用計画がより具体化していく事に伴い、アンケート調査も継続して実施される事になる。その際に地権者の意見を多く集められるよう、回収率向上のための取組みを今後検討していく必要がある。
- 地権者が自身の土地の所在等についてイメージしやすい工夫を行う必要がある。**
  - ・自身の所有する土地が普天間飛行場内のどこにあるのか、また、将来その土地がどうなるのか、地権者自身がイメージしやすい工夫を行う事でアンケートに回答しやすい状況を作り上げていき、地権者の意向を吸い上げていく必要がある。



## 【調査結果（抜粋）】

### 集計結果についての注記

- ・割合（パーセンテージ）を示すグラフでは、端数処理を行い小数点第1位まで表示している。そのため、表示している各割合の合計が100%にならないグラフがある。
- ・各グラフは、その表現目的により、「無回答」カテゴリを省いたり、複数のカテゴリをまとめたりしている。そのため、同設問・同カテゴリであっても、その割合やサンプル数が異なる場合がある。

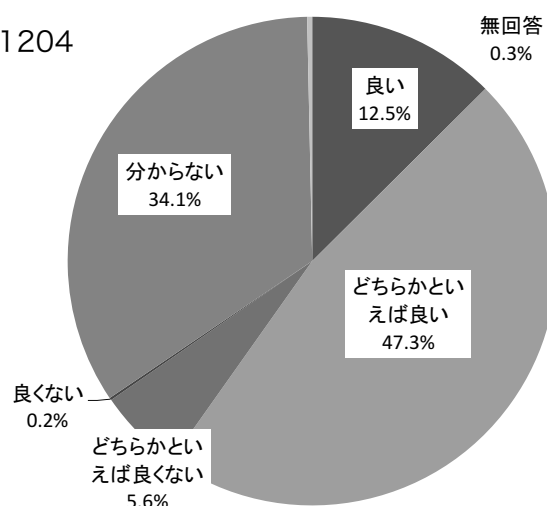
### ① 「全体計画の中間とりまとめ」配置方針図について

問. 普天間飛行場跡地利用の将来のまちづくりのイメージとしてまとめた「配置方針図」について、あなたはどのように思いますか。該当する番号を次の中から1つお答えください。

- ①良い      ②どちらかと言えば良い      ③どちらかと言えば良くない  
④良くない      ⑤分からない

### ■ 配置方針図についての単純集計 回答数=1204

回答内容	回答数	構成比
良い	151	12.5%
どちらかといえば良い	569	47.3%
どちらかといえば良くない	67	5.6%
良くない	2	0.2%
分からない	411	34.1%
無回答	4	0.3%
計	1204	100.0%



### 【集計結果】

- ・「良い」と「どちらかと言えば良い」の合計は約60%であり、対して「分からない」が34.1%であった。

### 【考察】

- ・この設問は、アンケート調査説明資料をご覧頂いた上でご回答頂く構成としており、比較的肯定的な回答が多い結果（約60%）となった。しかし、「分からない」（34.1%）が2番目に多く、理由として計画内容の具体的なイメージが掴みにくい事などが考えられる。今後、更なる内容検討を進めながら地権者へ分かり易く周知を図る必要がある。

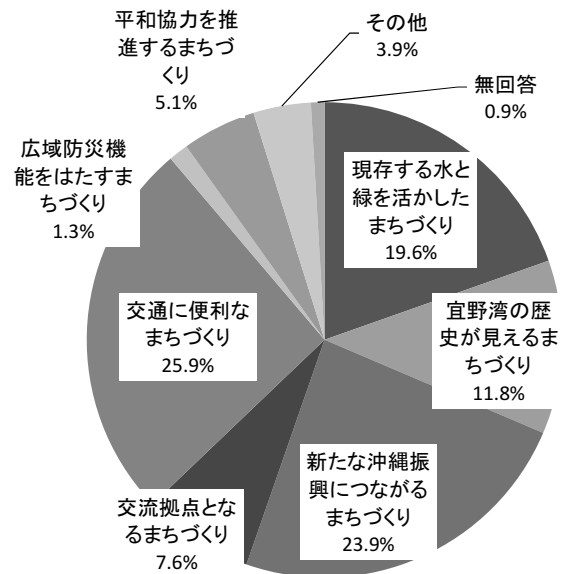
②将来のまちづくりを考える上での重要項目について

問. 普天間飛行場跡地利用のまちづくりを考える上で、最も重要だと思うことを、次の中から一つお答えください。

- ①地下水や既存樹林の保存など、現存する水と緑を活かしたまちづくり
- ②文化財の保全や並松街道の再生など、宜野湾の歴史が見えるまちづくり
- ③産業等の創出など、新たな沖縄振興につながるまちづくり
- ④県内外から人が集まる、交流拠点となるまちづくり
- ⑤中部縦貫道路・宜野湾横断道路や鉄軌道等の導入など、  
交通に便利なまちづくり
- ⑥県内外の避難所としての機能や物資受入れの機能を有するなど、  
広域防災機能をはたすまちづくり
- ⑦沖縄戦や土地接収の歴史、米軍基地の存在を伝え、  
平和を尊ぶ心を醸成し、国際交流による平和協力を推進するまちづくり
- ⑧その他

■重要項目についての単純集計 回答数=1204

回答内容	回答数	構成比
現存する水と緑を活かしたまちづくり	236	19.6%
宜野湾の歴史が見えるまちづくり	142	11.8%
新たな沖縄振興につながるまちづくり	288	23.9%
交流拠点となるまちづくり	91	7.6%
交通に便利なまちづくり	312	25.9%
広域防災機能をはたすまちづくり	16	1.3%
平和を尊ぶ心を醸成し、国際交流による平和協力を推進するまちづくり	61	5.1%
その他	47	3.9%
無回答	11	0.9%
計	1204	100.0%



【集計結果】

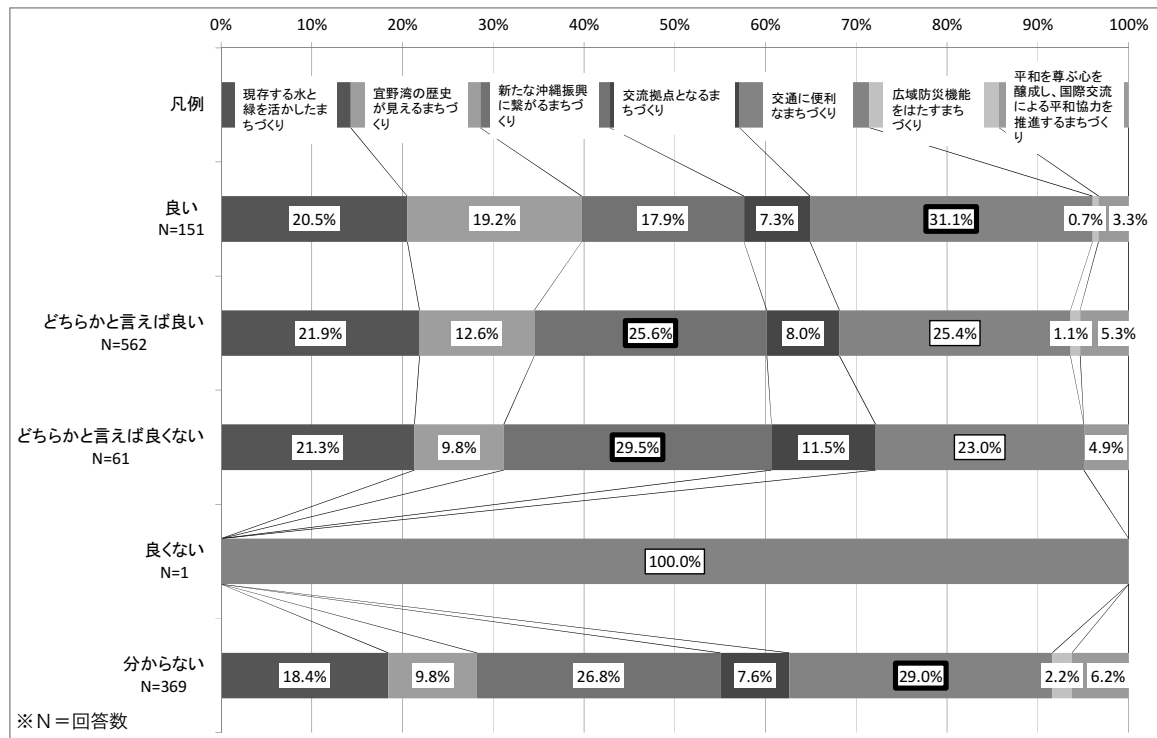
- ・「交通に便利なまちづくり」(25.9%) が最も多く、次いで「新たな沖縄振興につながるまちづくり」(23.9%)、「現存する水と緑を活かしたまちづくり」(19.6%) であった。

【考察】

- ・市の中心に普天間飛行場がある事で回り道をしないと目的地まで辿り着けない、渋滞が発生するなど現状の交通事情に不便さを感じている方が多く、返還後は交通問題の解消を望んでいると考えられる。また、「新たな沖縄振興」については、産業発展による経済活性化や宜野湾市が更に賑わいのあるまちになる事、また土地活用の一環として「貸した

い」(自分で貸したい/共同で貸したい)と望んでいる事などが考えられる。

■配置方針図の印象別に見た、まちづくりを考える上での重要項目



※その他、無回答は除外

【集計結果】

- 配置方針図について「良い」(N=151)「良くない」(N=1)「分からない」(N=369)と答えた方は、普天間飛行場跡地のまちづくりについて「交通に便利なまちづくり」が最も重要と答えた割合が多かった。また、「どちらかと言えば良い」(N=562)「どちらかと言えば良くない」(N=61)と答えた方は、「新たな沖縄振興に繋がるまちづくり」が最も重要と答えた割合が多かった。
- ※ N = 回答数

【考察】

- 配置方針図の印象にかかわらず、交通利便性の向上・新たな沖縄振興を望む方の割合が多いものの、「現存する水と緑を活かしたまちづくり」が最も重要と答えた方は、「良くない」を除くすべての項目で約 20%であり、自然環境に配慮したまちづくりの必要性も窺えた。
- 「歴史」「交流拠点」についても重要であると考えている方が各項目毎（「良くない」を除く）で一定の割合(約 10%)を占めているが、「広域防災機能」「平和協力」については 10%未満であり、内容の分かりづらさや十分に周知されていない事などが推察される。

### ③土地活用意向について

問. あなたはお持ちの軍用地（普天間飛行場）を今後どのように使いたいですか。該当する土地の使い方の、土地活用を行う面積の割合について、○をつけてお答えください。

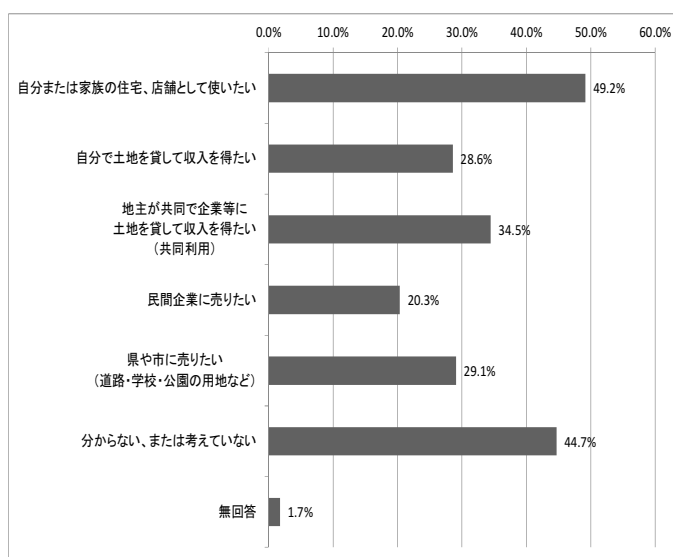
（複数回答可）

- ①自分または家族の住宅、店舗として使いたい ②自分で土地を貸して収入を得たい  
 ③地主が共同で企業等に土地を貸して収入を得たい（共同利用）  
 ④民間企業に売りたい ⑤県や市に売りたい（道路・学校・公園の用地など）  
 ⑥分からない、または考えていない

面積の割合：全部、3分の2、半分、3分の1以下、決めていない

#### ■土地活用意向の単純集計 回答数＝2505

回答内容	回答数	構成比
自分または家族の住宅、店舗として使いたい	592	49.2%
自分で土地を貸して収入を得たい	344	28.6%
地主が共同で企業等に土地を貸して収入を得たい（共同利用）	415	34.5%
民間企業に売りたい	245	20.3%
県や市に売りたい（道路・学校・公園の用地など）	350	29.1%
分からない、または考えていない	538	44.7%
無回答	21	1.7%
計	2505	



※複数回答のため、回答者 1,204 名に対し回答数 2,505 となっている。

※構成比＝回答数／回答者数

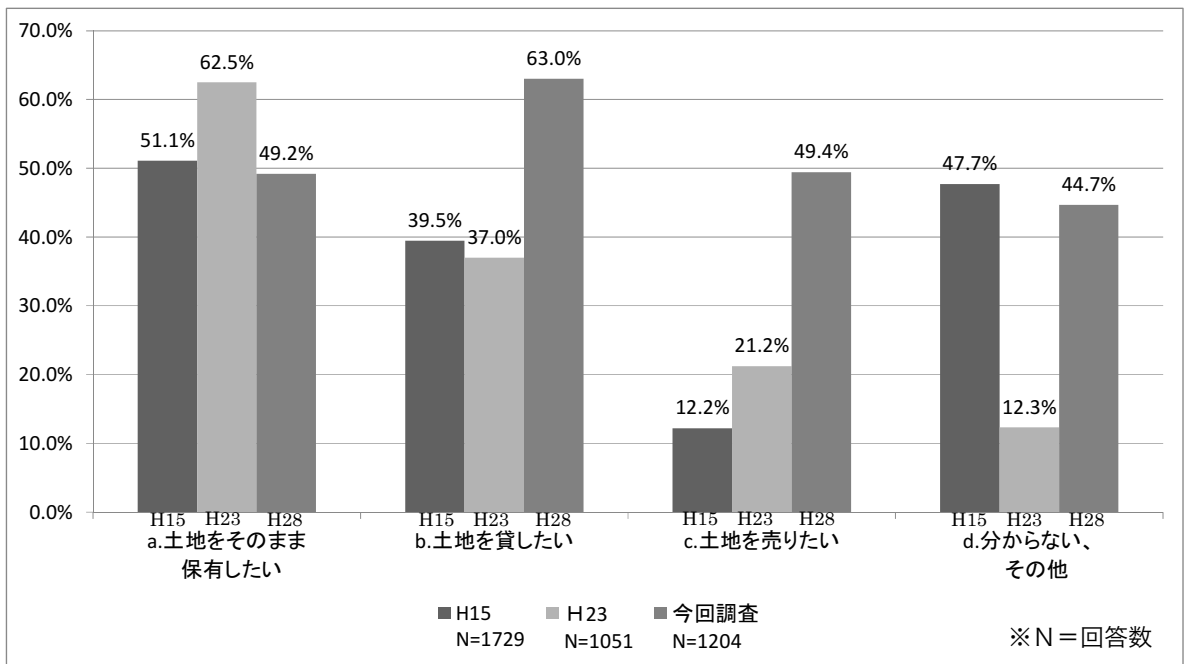
#### 【集計結果】

- ・「自分または家族の住宅、店舗として使いたい」（49.2%）の回答が最も多く、次いで「分からない、または考えていない」（44.7%）、「地主が共同で企業等に土地を貸して収入を得たい」（34.5%）であった。

#### 【考察】

- ・この設問は所有面積に対する活用したい面積割合も合わせて伺っているが、土地の活用方法のみに着目すると、普天間飛行場返還後に自分または家族のために住宅（店舗）を建てて生活したいと望む方が多い一方で、返還時期や所有する土地の現状などが見えない中で考えを保留する方も多い事から、返還が間近になり土地活用に関する情報が増えてきたタイミングで、活用方法を決定していくものと推察される。

■調査時期別に見た土地活用意向の推移



注) 調査時期により選択肢の表現方法が若干異なるため、下表のように H23 年度時点アンケートの表現方法に統一し集計を行った。

凡例 (H23 アンケートと同一表記)	H15 アンケートに おける表記	今回のアンケートに おける表記
a. 土地をそのまま保有したい	自己住宅、自己店舗、自己農地	自分または家族の住宅、店舗として使用
b. 土地を貸したい	賃貸住宅、商業ビル、土地賃貸	土地を貸して収入を得る、共同利用
c. 土地を売りたい	土地売却	民間企業への売却、県や市に売却

【集計結果】

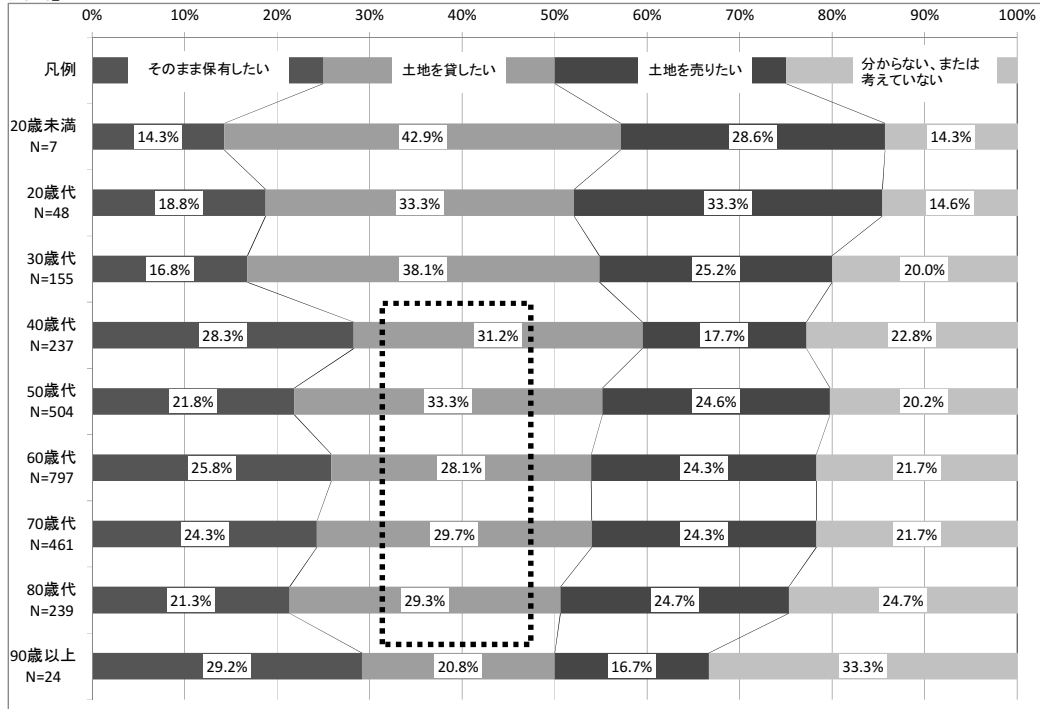
- ・「土地を貸したい」「土地を売りたい」「分からない、その他」意向は、平成 23 年度時点と比べ増加している。
- ・「土地をそのまま保有したい」意向は、平成 15 年度、平成 23 年度時点よりも少なかった。

【考察】

- ・「貸したい」「売りたい」意向が増えた理由として、自身の土地（資産）を運用し、収入（収益）を得たいという考えが広がってきた事などが考えられる。また「分からない」意向が増えている事について、返還時期の不透明さが要因の一つと推察される。

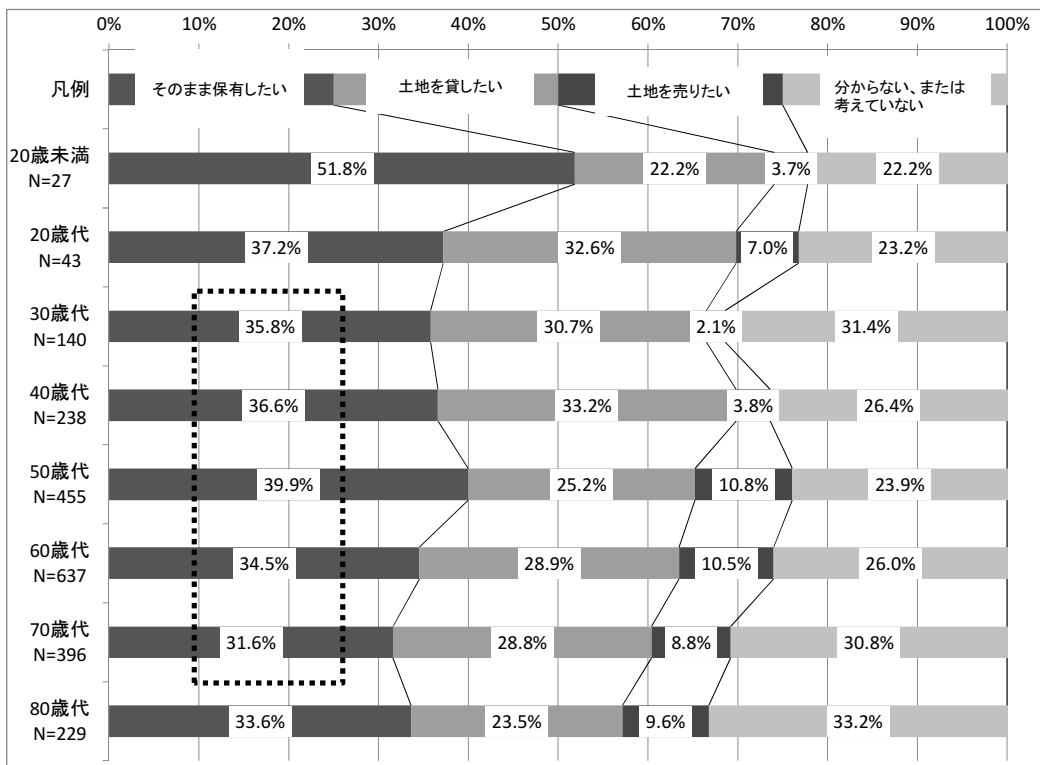
■ 調査時期別に見た年齢別土地活用意向の推移

【今回】



※ N = 回答数

【平成 15 年度調査時点】



※ N = 回答数

【考察】

- ・ 今回のアンケート調査では、40歳代から80歳代で全回答数の9割超を占める。そのため、平成15年度調査時点における30歳代から70歳代の世代がほぼスライドして今回

の40歳代から80歳代になっているものと想定し、平成15年度調査時点と今回の年齢別土地活用意向の推移を見てみると、「土地をそのまま保有したい」から「土地を貸したい」に意向が変化している事が分かる。

- ・これに関しては、資産運用の視点や返還時期の不透明さなどから土地活用に対する考え方が変わってきているものと推察される。今後も定期的な調査が必要と考える。

#### 注) グラフ及び集計結果の文面における表現について

土地を貸したい = 「自分で土地を貸して収入を得たい」 + 「地主が共同で企業等に土地を貸して収入を得たい」

土地を売りたい = 「民間企業に売りたい」 + 「県や市に売りたい」  
として取り扱っている。

#### 【アンケート総括】

アンケートの全体回収率は30.3%（うち市内回収率では27.8%）という状況であり、配布数の増や質問・回答がまだ複雑と感じられた事などから、過去（平成15年度：70%、平成23年度：33.6%）と比較して低かったと考えられる。

また、現時点で普天間飛行場の返還時期が明確になっていない事もあり、「まだ先の話」という意識を地権者が持っている事も要因の1つとして考えられる。

①の「全体計画の中間とりまとめ配置方針図について」では、肯定的な意見が約6割を占めているが、「分からない」という回答も3割超あった。地権者としては、大まかな配置方針では判断しづらく、自身の土地がどうなるか分からない事や跡地利用計画がより具体化された段階で判断する傾向にある事から、跡地利用計画の検討を進めながらより具体的なイメージや考え方を地権者へ提供できるよう取り組んでいく必要がある。

②の「将来のまちづくりを考える上での重要項目について」では、「交通に便利なまちづくり」が最も多い結果であり、現状の交通事情に不便さを感じている方が多く、返還後は交通問題の解消を望んでいると考えられる。今後の跡地利用で、鉄軌道を始めとする新たな公共交通体系及び広域幹線道路の整備等により慢性的な交通渋滞の解消が期待される所である。

調査時期別の土地活用意向としては、全体的に「土地を貸したい」、「土地を売りたい」の割合が増加している傾向にある事から、資産活用し、収入を得たいという意識が過去と比較して高まっていると考えられる。

今回のアンケートでは、現時点における地権者の大まかな土地活用意向と、跡地利用計画の検討内容に対する意見を調査したが、今後も引き続き地権者の土地活用意向に関するアンケートを継続して実施し、必要な部分は跡地利用計画に反映していくなど、より良い跡地利用計画を地権者と共に作り上げていくべく取組みを進めていく必要がある。

## 2-4. 「先進地視察」の成果と課題

取組み方針①：若手の会及び NB ミーティング合同での勉強会や先進地視察会等の継続実施による組織間の連携強化と議論の深化。

### (1) 先進地視察会

#### 【取組みのポイント】

普天間飛行場の跡地利用に向けて、若手の会と NB ミーティングにおけるまちづくりの先進情報の収集・蓄積及び議論の深化を図る事や両組織の交流により、地域連携の仕組みづくりに資する事を目的として先進地視察会を実施する。

今年度は、防災・減災のまちづくりの視点を学び、(仮称) 普天間公園の整備の考え方を今後学んでいくにあたってのヒントを習得する事、また、まちの価値を高める取組みのヒントを習得する事を目的として、「防災のまちづくり」「エリアマネジメントによるまちの魅力づくり」をテーマとして実施した。

また、視察会の中で、若手の会と NB ミーティングの合同勉強会も実施し、両組織間の知識の習得及び今後の議論の深化を図る。

#### 【概要】

##### ●先進地視察会

○開催日時：平成 28 年 11 月 24 日 (木) ～11 月 26 日 (土)

○視察場所及び視察テーマ

①宮城県石巻市内

テーマ「防災のまちづくり」

②仙台駅東エリアマネジメント協議会 (宮城県仙台市)

テーマ「エリアマネジメントによるまちの魅力づくり」

○参加者：12 名 (若手の会 9 名、NB ミーティング 2 名、地主会事務局 1 名)

#### 【取組み成果と今後の課題】

##### 【取組み成果】

##### ●防災まちづくりの視点と防災に対する市民の意識の変化を学ぶ事ができた。

- ・防災のまちづくりを進めていく上での視点や留意すべき事項、また、地域住民との意向のすり合わせの重要性等について学ぶ事ができた。
- ・東日本大震災前後の、市民 (地域住民) のまちづくりに対する意識の変化を学ぶ事ができた。

##### ●まちの魅力づくりのための取組み方についてヒントを得る事ができた。

- ・実際にまちを歩き説明を受ける事で、産官学民が協働してまちの魅力を高めていく取組み方についてヒントを得る事ができた。



### 【今後の課題】

●防災まちづくり、また、まちの魅力づくりのための取組み方について、より深い検討が今後必要である。

- ・今回視察で学んだ防災まちづくりの視点を、跡地利用計画にどう反映する事ができるか、現在の跡地利用計画策定段階における防災の考え方を学んだ上で、若手の会及びNBミーティングの中で検討を深めていく事が今後必要である。
- ・地権者だけではなく各種利害関係者が協働してまちの魅力づくりに取り組んでいくにあたっては、まちづくりの序盤から魅力づくりの検討を進めていく事が望ましいが、そのための具体的な進め方や役割分担等について、より深く検討を進めていく事が今後必要である。



写真：石巻市佐須地区(1日目)



写真：エリアマネジメントの説明(2日目)



写真：仙台市内まちあるきのようす①(2日目)



写真：仙台市内まちあるきのようす②(2日目)

## (2) 若手の会・NB ミーティング合同勉強会

### 【取組みのポイント】

若手の会とNB ミーティングは、地権者・市民の検討組織としてそれぞれ跡地利用等に関する検討を行っている。そのため、さらなる組織間の連携強化や、立場が異なる中での意見をそれぞれの検討に活かす事を目的として、若手の会・NB ミーティングの合同勉強会を先進地視察会の中で開催する。

### 【概要】

#### ●若手の会・NB ミーティング合同勉強会

○開催日時：平成 28 年 11 月 25 日（金）16：30～18：00

○開催場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台東口会議室

○内 容：①これからのエリアマネジメントのあり方  
②防災のまちづくり

○講 師：増田 聡（東北大学教授）

○参加者：12 名（若手の会 9 名、NB ミーティング 2 名、地主会事務局 1 名）

### 【取組み成果と今後の課題】

#### 【取組み成果】

#### ●現在のエリアマネジメントの動向やあり方に関する知識を習得できた。

・全国のエリアマネジメントの動向、エリアマネジメントに対する時代の要請事項とその要素、社会的意義などについて講義を受け、基礎的な知識の習得を図る事ができた。

#### ●東日本大震災の事例を踏まえ、防災まちづくりを進めていくにあたっての課題や留意事項等を知識として習得できた。

・東日本大震災の被災状況から、震災前における各種計画の問題点や地域住民の地域防災に関する意識の変化など事例を踏まえ、防災まちづくりに関する課題や留意事項等を習得できた。

・宮城県内で広域防災拠点として現在検討が進められている地域の課題等を踏まえ、広域防災拠点の位置づけを行うにあたっての留意事項等について基礎的な知識の習得を図る事ができた。

#### 【今後の課題】

・合同勉強会で習得した知識をもとに、現在の跡地利用計画策定に向けた取組みを踏まえた上で、防災まちづくりの視点やまちの魅力づくりを跡地利用計画にどう活かしていくか検討を進めていく必要がある。



写真：合同勉強会のようす①



写真：合同勉強会のようす②

## 2-5. 「懇話会の開催」の成果と課題

取組み方針①：合意形成活動全体についての評価・検証を行う場の継続。

取組み方針②：合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施。

取組み方針③：若手の会、NB ミーティング両組織が活動を進めていく中での課題等について検討し情報共有を図ると共に、各々の組織にフィードバックさせる事により、着実な合意形成活動に繋げていく。

### (1) 懇話会の開催

#### 【取組みのポイント】

跡地利用に向けた合意形成活動は、長期的な視点で継続して議論を深めていく必要があるため、「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」にて本業務の進捗状況の報告や活動成果の検証等を行う。

今年度は平成 27 年度に引き続き、アンケート調査の設問内容や回収率向上のための工夫等について検討を行った。

また、若手の会、NB ミーティング両組織の活動を進めていく中で現在生じている課題等に対する検討を行い、各々の組織にフィードバックさせて議論の深化を図るなど、組織の課題解決に向けた取組みを実施して、今後の着実な合意形成活動に繋げていく。

## 【概要】

回数	開催日時	議題
第1回	平成28年7月25日(月) 17:30~19:30	①地権者の土地活用意向調査について
第2回	平成28年8月31日(水) 17:30~19:30	①地権者の土地活用意向調査について
第3回	平成28年12月5日(月) 17:30~19:30	①若手の会・NB ミーティングの抱える課題について
第4回	平成29年3月8日(水) 17:30~19:30	①NB ミーティングの抱える課題について（フィードバック） ②若手の会の抱える課題について

## 【取組み成果と今後の課題】

### 【取組み成果】

#### ●アンケート調査票回収率向上のための検討を行った。

・若手の会での検討結果も踏まえながら、昨年度に引き続きアンケート調査回収率向上のための検討を行った。

#### ●若手の会、NB ミーティング両組織の抱える課題解決に向け、一定の方向性を示す事ができた。

・会員増に向けた取組み方策や会のあり方等、両組織の抱える課題について、懇話会メンバー間での情報の共有と課題解決に向けた検討を行う事ができた。また、その結果を各組織に持ち帰って再度両組織の中で検討する事により、議論の深化を図ると共に課題解決に向けた一定の方向性を見出す事ができた。

### 【今後の課題】

#### ●合意形成活動に係る継続した議論を実施していく必要がある。

・今年度は若手の会とNB ミーティングの評価・検証を行ったが、今後は地権者全体、市民全体の合意形成に関する活動の評価・検証を実施する場面が出てくる事が考えられる。そのため、今後も継続して懇話会を開催し、合意形成を進めていく上での方向性等についての議論を進めていく必要がある。

## 2-6. 今年度の成果と今後の課題

平成 27 年度調査で挙げられていた今後の課題と方向性について、本調査における成果と引き続き検討を要する事項を以下に再整理する。

項目 (平成 27 年度調査)		平成 27 年度調査で挙げられていた課題・方向性	本調査における成果	今後も引き続き検討を要する事項	
地権者に係る事項	若手の会	会の活動	・組織・体制の見直し、強化の検討	・現在抱えている課題の解決に向けて取り組む事ができた	・組織体制、組織拡大のための取組み方策について継続して検討する必要がある
		・地主会との連携方策	—	・地主会との連携をより強化していく必要がある	
		・跡地利用の理想像検討	—	・引き続き検討が必要である	
		—	・地権者側の立場で、アンケート調査回収率向上のための検討を行った	—	
		—	・先進地視察会に参加し、防災まちづくりの視点と防災に対する市民の意識の変化を学ぶ事ができた ・まちの魅力づくりのための取組み方についてヒントを得る事ができた	・防災まちづくり、また、まちの魅力づくりのための取組み方について、より深い検討が今後必要である	
	—	・若手の会、NB ミーティング合同勉強会を開催し、現在のエリアマネジメントの動向やあり方に関する知識を習得できた ・東日本大震災の事例を踏まえ、防災まちづくりを進めていくにあたっての課題や留意事項等を知識として習得できた	・習得した知識をもとに、現在の跡地利用計画の策定に向けた取組みを踏まえた上で、防災まちづくりの視点やまちの魅力づくりを跡地利用計画にどう活かしていくか検討を進めていく必要がある		
	地主会役員との意見交換会	・継続した意見交換会の実施	—	・地主会と調整しながら実施する必要がある	
	一般地権者	字別意見交換会	・意見を出しやすい雰囲気づくり、集まりやすい会場選定と周知の工夫、より多くの地権者が参加するための工夫	・跡地利用計画に関する内容等の情報を発信すると共に、地権者と意見交換を行う事ができた	・より多くの地権者が参加しやすい雰囲気づくりを継続して検討する必要がある
		—	—	・地主会と若手の会との連携強化を図る事ができた	—
	市民に係る事項	NB ミーティング	会の活動	・卓上の議論のみではなく定例会内容の幅を広げ、市民の興味関心を促す	・「市民の声」の収集及び集約を図る事ができた
・イベント参加者に対する会の周知や新規メンバー獲得に向けた積極的なPR、パンフレットを活用した活動周知、関心と新規会員の獲得			・企画やまち未来だよりで広報を行うと共に、会員が自主的にNB ミーティングの周知活動を行った	・継続して定例会参加者を増やし、議論の活性化を図っていく取組みが必要である ・イベントの継続的な実施に向けた取組みを継続して行う必要がある	
・NB ミーティングとしての跡地利用の考えをまとめ、市民に伝わりやすいパンフレットへ適宜更新を行う			—	・まとまった段階で更新を行う	
—			・活動方針の共通認識を図る事ができた	・組織の基礎固めを進めていく必要がある	
—			・先進地視察会に参加し、防災まちづくりの視点と防災に対する市民の意識の変化を学ぶ事ができた ・まちの魅力づくりのための取組み方についてヒントを得る事ができた	・防災まちづくり、また、まちの魅力づくりのための取組み方について、より深い検討が今後必要である	
—			・若手の会、NB ミーティング合同勉強会を開催し、現在のエリアマネジメントの動向やあり方に関する知識を習得できた ・東日本大震災の事例を踏まえ、防災まちづくりを進めていくにあたっての課題や留意事項等を知識として習得できた	・習得した知識をもとに、現在の跡地利用計画の策定に向けた取組みを踏まえた上で、防災まちづくりの視点やまちの魅力づくりを跡地利用計画にどう活かしていくか検討を進めていく必要がある	
—			—	—	



項目（平成 27 年度調査）		平成 27 年度調査で挙げられていた課題・方向性	本調査における成果	今後も引き続き検討を要する事項
市民に係る事項	一般市民	世代交流ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の跡地利用計画に対する啓発に繋がった</li> <li>市民参加型によるまちづくり検討の土台作りに繋がった</li> <li>NB ミーティングの活動に直結する成果に結びついた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な実施体制の検討が必要である</li> </ul>
		若い世代間の意見交換会		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した取組み</li> <li>最終的な学生意見のとりまとめ</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>一般参加者を増やし意見を聞くため、大学と連携して周知や講義と合わせての参加を検討</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学との連携方策について引き続き検討が必要である</li> </ul>
情報発信	ふるさとの発行		<ul style="list-style-type: none"> <li>現時点における合意形成活動の取組み情報を提供できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時期を捉えた的確な情報発信を継続して行う</li> <li>見易さ及び分かり易さの工夫など、継続して検討していく必要がある</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>時期を捉えた的確な情報発信を継続して行う</li> <li>分かりやすさの工夫、親しみやすさ等含めて継続して検討</li> </ul>			
	まち未来だよりの発行		<ul style="list-style-type: none"> <li>跡地利用に向けた取組みに関する情報を提供できた</li> <li>視覚的な見やすさの向上と、より広範囲への情報発信が可能となった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も継続して発行していく必要がある</li> <li>情報誌を通じた各種活動の開催案内や活動結果報告等を行い、市民の参加、協力を促していく事が求められる</li> </ul>
	ホームページ更新		<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い情報提供に繋がった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して実施する必要がある</li> <li>分かりやすさを重視した見せ方の工夫等について今後検討が必要である</li> </ul>
評価及び検証	懇話会の開催		<ul style="list-style-type: none"> <li>若手の会、NB ミーティング両組織の抱える課題解決に向け、一定の方向性を示す事ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合意形成活動に係る継続した議論を実施していく必要がある</li> </ul>
	—		<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査票回収率向上のための検討を行った</li> </ul>	—
	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階的に（仮）ゆめ会議設立に向けた取組みを進める</li> </ul>		—	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手の会、NB ミーティング両組織の成長具合と、跡地利用計画策定期間を鑑みながら、しかるべき時期に実施する</li> </ul>

次年度以降は、上記記載の今後も引き続き検討を要する事項についての対応方策も踏まえて検討を進めていく必要がある。





## 【次年度以降の活動内容（案）】

前述した今後の課題の解決に向け、「地権者」、「市民」、「情報発信」、「評価及び検証の場」のそれぞれに対して、下記の考え方に従って次年度以降の合意形成活動を進めていく事が望ましいと考える。

### ①地権者に係る取組み

一般地権者に対する情報提供及び直接的な対話の場、若手の会の考えの発表の場として、字別意見交換会を継続して実施し、開催にあたっては「参加しやすい雰囲気づくり」を重視し、より多くの地権者の参加を促していく。

若手の会に関しては、地主会役員との意見交換会や会の組織体制及び拡大のための取組み方策等について検討を進めていく。また、地主会未加入者への対応としても、後述するふるさとの発行やホームページ等、情報を継続して発信する必要がある。

#### 活動内容（案）

- ・字別意見交換会の開催
- ・若手の会定例会活動支援

### ②市民に係る取組み

NB ミーティングが主体となり、普天間飛行場返還後の跡地利用に繋がる市民の声を集めるイベントを実施し、市民の跡地利用に対する意向醸成や情報発信を行う。

また、NB ミーティングの活動周知と会員加入の呼びかけを合わせた、地域団体向け出前PRの内容を現在検討している事から、その実施に向けた取組みを進め、会員の獲得に繋げていく。

#### 活動内容（案）

- ・跡地利用のまちづくりに繋がる市民の声集めイベント開催  
（過去と未来の語り場、NBM まちづくり分科会の継続を想定）
- ・地域団体向け出前PRの実施
- ・NB ミーティング定例会活動支援

### ③情報発信に係る取組み

跡地利用計画及び意向醸成活動に関する情報を継続して発信し続け、地主会未加入者や市民等に対し広く情報提供を行う。その際、跡地利用計画の進捗状況等を鑑みて適切な時期に発行していく事に留意する。

#### 活動内容（案）

- ・地権者支援情報誌「ふるさと」の発行
- ・まち未来だよりの発行
- ・宜野湾市ホームページの更新

### ④評価及び検証の場に係る取組み

今後も引き続き合意形成活動に係る継続した議論を進めていく事とする。

議題及び進め方については、若手の会及びNBミーティングの抱える課題に対して意見交換を進めていくと共に、跡地利用計画の策定状況に応じて懇話会メンバーを随時増員させるなど、柔軟な対応を行うものとする。合わせて、返還後の事業化検討段階に向けて、懇話会メンバーの知識の底上げを図るために、土地区画整理事業や土地活用方法など、まちづくり手法の内容に関する勉強会を懇話会メンバーで開催する事も望ましい。

#### 活動内容（案）

- ・懇話会の開催

### ⑤先進地視察会の実施

上記①～④に加え、地権者側の組織である若手の会、市民側の組織であるNBミーティング両組織に対し、まちづくり先進情報の収集、蓄積並びに議論の深化を図ると共に組織間の連携強化を図るため、継続して先進地視察会を実施する。

若手の会に関しては今年度も新メンバーが参加している事からも、若い世代及び新規会員を中心として視察メンバーを構成するよう留意する事が望ましい。また、過去の視察会の知識を事前に学習した上で実施し、視察会終了後は跡地利用計画にどう活かせるかを考えて両組織でフィードバックを行う事により、より効果的な知識習得に繋げていくものとする。

合わせて、可能ならば視察会の中で合同勉強会を開催する事も視野に入れて視察テーマや候補地を検討する事が望ましい。

#### 活動内容（案）

- ・先進地視察会の実施